

【2】財務関係

I. 財務の概要

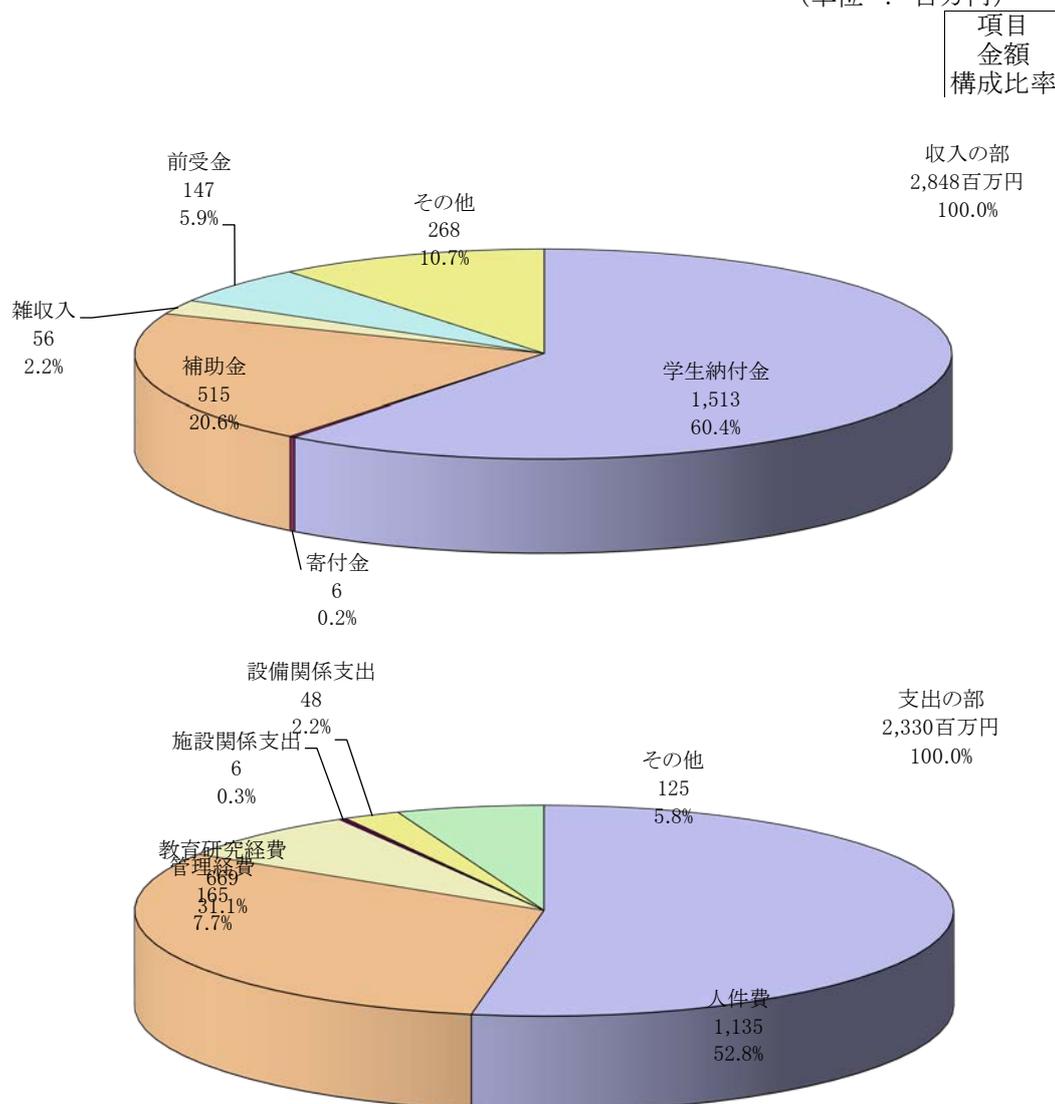
1. 資金収支計算書（法人全体）

資金収支計算書は、当該会計年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）の諸活動に対する全ての収入及び支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにするものであり、次のグラフは、資金の収入及び支出を項目別にグラフにしたものである。

当年度決算の結果、資金収入合計は、2,505百万円、資金支出合計は、2,148百万円となり、収入から支出を差し引いた当年度資金収支差額は、357百万円の収入超過となった。

前年度からの繰越支払資金は6,208百万円であったので、翌年度への繰越支払資金は6,565百万円となった。

（単位：百万円）



<用語の説明>

・収入の部

- 学生納付金 … 授業料、入学金、教育充実費、実験実習費、施設管理費、特別施設費など、学生・生徒からの納入された収入
- 補助金 … 国・地方公共団体から交付される助成金収入
- 前受金 … 当該年度中に受け入れた翌年度の授業料、入学金等の収入

・支出の部

- 人件費 … 専任教職員、非常勤講師、学生アルバイトの給与・退職金などの支出
- 教育研究費 … 教育研究、学生・生徒に係わる支出
- 管理経費 … 総務・経理業務や学生生徒の募集活動経費等、教育研究以外の支出
- 借入金利息・返済 … 借入金の返済、支払利息の支出
- 施設関係 … 土地、建物、構築物等の支出
- 設備関係 … 機器備品、図書等の支出

2. 事業活動収支計算書（法人全体）

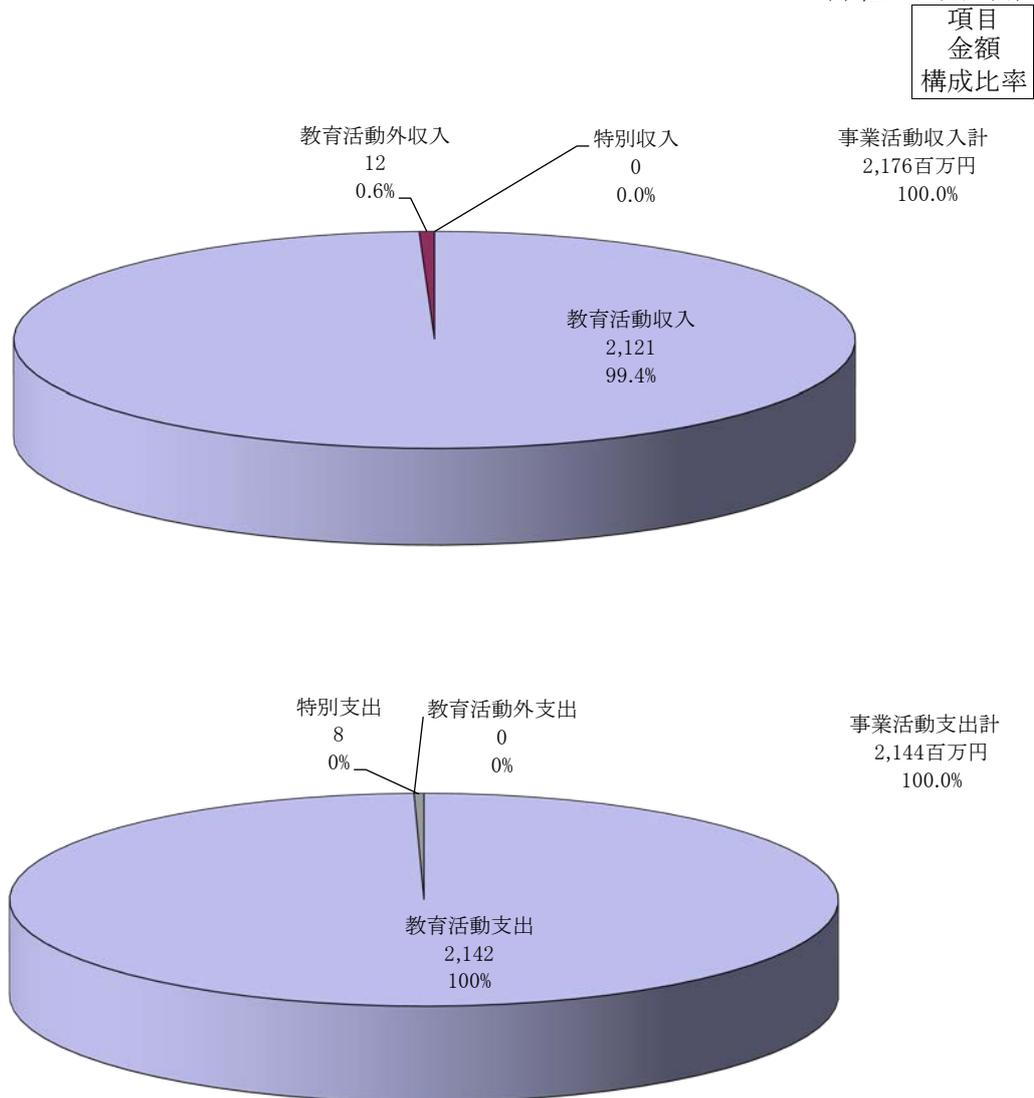
事業活動収支計算書は、当該会計年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）の活動収入及び活動支出の内容及び均衡の状態を明らかにするためのものであり、次のグラフは、事業活動別にグラフにしたものである。

当年度決算の結果、教育活動収支については、収入は2,121百万円、支出は2,142百万円となり教育活動収支差額は、21百万円の支出超過となった。教育活動外収支については、収入は12百万円、支出は0円となり教育外活動収支差額は、12百万円の収入超過となった。特別収支については、収入は0円、支出は8百万円となり特別収支差額は、8百万円の支出超過となった。

結果、基本金組入前当年度収支差額は△17百万円となり、基本金組入額合計△116万円を加えた、当年度収支差額は、△18百万円となった。

前年度収支差額3,277百万円を加え、基本金取崩額34百万円を加えた翌年度繰越収支差額は、3,293百万円となった。

（単位：百万円）



<用語の説明>

- | | |
|----------|--|
| 教育活動収支 | …（収入）当該年度のすべての収入のうち、教育活動収入
（支出）当該年度のすべての支出のうち、教育活動支出 |
| 教育活動外収支 | …（収入）受取利息・配当金、その他教育活動外の収入
（支出）借入金利息、その他教育活動外の支出 |
| 特別収支 | …（収入）資産売却収入、その他の特別収入（施設設備寄付金・施設設備補助金）
（支出）資産処分差額、その他の特別支出 |
| 基本金組入額合計 | … 教育活動に必要な資産を継続的に保持するため維持するべきものとして、土地、建物、機器備品等の資産を自己資金で取得した額で、帰属収入から組入れた金額（取得額と同額） |

3. 貸借対照表 (法人全体)

年度末(令和2年3月31日)における資産、負債、純資産の状態、保有する財産を示し表示し、純資産(正味財産)がいくらになっているか(財政状態)を明らかにするもので、下のグラフのとおりである。

年度末の資産は、15,271百万円〔固定資産8,536百万円(有形固定資産5,224百万円・特定資産1,600百万円・その他の固定資産1,712百万円)、流動資産6,680百万円〕で、負債は、474百万円〔固定負債177百万円・流動負債297百万円〕となり資産から負債を引いた正味財産は、14,742百万円となる。

(単位:百万円)

項目	金額	構成比率
----	----	------

